

1960年 (25歳)

第34回国画会展 《やせっぽマリア》
第15回全道展 《聖家族》
第2回個展 (札幌・丸善画廊)
浦河町堺町に転居。
日高報知新聞連載小説 中原均 (後の、たか・たかし) 著
「かさぶた」の挿絵を担当 (20回中5回)



《死》
1961年
油彩・油性パステル、板
116.8x91.5cm

1961年 (26歳)

第35回国画会展 《聖家族》
第16回全道展 《死》《家族の死》。全道展協会賞受賞
全道展会友推挙
個展「牧野法郎に捧ぐ」(札幌・コージーコーナー画廊)
第3回個展 (札幌・丸善画廊)

1962年 (27歳)

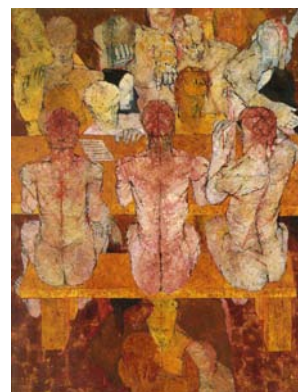
第4回北海道版画展 (札幌大丸ギャラリー)
1961年度各公募展受賞者エントリー・北海道新人作家選抜美術展
(札幌・HBC三条ビルギャラリー) 《家族の死》。
第36回国画会展
第17回全道展 《死者のために》《F家の肖像》。全道展会友賞
全道展会員
グループ・北緯結成 (福井正治、大久保一良、伏木田光夫。後、解散)
グループ・北緯展 (札幌・HBC三条ビルギャラリー)
(63、64、65年参加出品)
伏木田光夫油絵小品展 (北洋相互銀行浦河支店)
第4回個展 (札幌富貴堂画廊・コージーコーナー画廊)
札幌在住作家選抜美術展 (札幌・HBC三条ビルギャラリー)



《北方の人》
1963年
油彩、板
183.2x137.3cm

1963年 (28歳)

第37回国画会展 《北方の人》《F家の裁き》。国画会国画賞受賞。
第18回全道展 《人間の季節 (風景)》
伏木田光夫油絵小品展 (北洋相互銀行浦河支店ホール)
第5回個展 (札幌・HBC三条ビルギャラリー)



《F家の裁き》
1963年 油彩、板
183.6x137.7cm

1964年 (29歳)

第38回国画会展 《-人間の季節-晚餐》
国画会会友 (1977年6月退会)
伏木田光夫デッサン展 (札幌・北海道銀行鳥居前支店)
3グループ (オード、組織、北緯) 合同展 (札幌・HBC三条ビルギャラリー)
第19回全道展 《朔北の人々》
第6回個展 (札幌・HBC三条ビルギャラリー)

1965年 (30歳)

第39回国画会展 《北方の家族》
20周年記念全道展 《漁師の家》
個展 (札幌大丸藤井画廊)
第1回全北海道勤労者美術展 《二人》《漁師の部屋》。道教育委員長賞受賞。

1966年 (31歳)

第40回国画会展 《人間の季節 (愛)》《F家の日曜日》
第21回全道展 《人間の季節-愛-》
個展 (札幌大丸藤井画廊)
個展 (浦河労働会館二階)
北海道教育大学岩見沢分校非常勤講師 (美術実技担当)。1968年3月まで。
個展 (北洋相互銀行厚岸支店二階会議室)

「薔薇の塩」ノート(美術ペン42, 1979年)より
僕の幼い頃の最も恐い夢は、僕が父を殺して砂浜に埋めるものでした。黒い雨合羽を幾重にもして、故郷の川の縁に埋めるのですが、雨の日その死体は手を出すのです。「あー、これが夢ならどんなにいいだろう」と僕は幾度も夢のなかで神様に祈りました。夢は繰り返しますが、僕を悩まし続けたのは原罪の意識であった。僕の内面の形成は、どんな父のようになろうとする自分から、どう逃れることが出来るかに始まりました。